

# あらためて、人が大切にされる社会とは？

アイアイハウス 総合施設長 粟津 浩一

新年度が始まり、早くも4分の1が終わりました。心なしか近頃、時の経つのが早く感じるようになりました。年のせいでしょうか？めまぐるしく変わる障害者福祉の制度への対応、とりわけ障害福祉サービスの報酬改定のあった今年度は、年度末から年度始まりにかけては、その対応と種々の報告書の作成、各種会議の準備等、日々の業務に追われ気がつくともう7月を迎えています。

先日、「日本創成会議」と言う民間団体が提言を出したという新聞記事を見ました。それは、東京都近郊の高齢者の地方への移住を促す「東京圏高齢化危機回避戦略」と言うものです。その内容は、今後10年間で東京を中心とする高齢者の介護需要が175万人も増えるので、余力のある（これもまた誰が決めるのか？）地方への移住を進めると言うものです。そしてそのために、医療介護サービスの「人材依存度」を引き下げる構造改革のために、

- ① ICTやロボットなどの活用によるサービスの効率化、生産性の向上
- ② 資格の融合化、マルチタスク型の人材の育成
- ③ 外国人介護人材受け入れの積極的推進

が対策として提言されています。この記事をみて、大きな違和感とともに怒りと、そして寒気を感じたのは私だけではないと思います。ここで出て来るキーワードは、「構造改革」「効率化」「生産性の向上」などなど……。障害者福祉もちろん、社会保障は、高齢・児童・障害問わず「人と人との関係性の中での支援、そしてそれを支えるのが憲法25条に保障された公的な責任」が基本であると思います。奇しくも障害者福祉の分野では昨年、国連障害者権利条約を我が国も批准し、その第19条には「障害のある人が、どこで誰と暮らすかを選べる権利を有し、また、地域社会から必要な在宅サービス、居住サービスを利用する機会を有する」と書かれています。きょうされんの第38次国会請願署名のスローガンも「あたりまえに働き、えらべる暮らしを」です。障害のある人もない人も、誰もが一人ひとりそれぞれの人生の主人公であり、決して経済効率優先のための机上の論理の、数あわせの対象物ではありません。アイアイハウスの仲間たちも一人ひとりが人生の主人公であり、当法人は仲間みんなの願いに基づいて事業を進めています。決して仲間たちは「利用契約だけで結ばれた、顔の見えないサービスの消費者」ではありません。

去る5月28日に全国から集まった400名をこえる仲間たちと、全国からの100万筆を超える署名を携え、国会議員に託す国会請願に行ってきました。アイアイハウスも多くの皆さんから、約3,500筆の署名と16万円を超える募金のご協力をいただきました。直接、お出合いできたのは穀田恵二衆議院議員のみでしたが、他の事業所の仲間・職員・家族とともに実情を訴え、署名をことづけてきました。

社会保障の充実を求める運動は、市場原理に基づく経済効率で評価される今の制度を改善させるとともに、本当に一人ひとりが大切にされる社会づくりにつながる運動だと、全国の仲間と共に改めて確認できた国会請願でした。募金については、今後のきょうされん活動の充実のためと、アイアイハウスの仲間たちのきょうされん第38回全国大会（兵庫大会）参加費用の一部として大切にに使わせていただきます。ご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

